

さかなのなかま

葛葉峡谷でよく見られるのは下の6種類。川の淵（深い所）や、瀬（浅くて流れの速い所）の石の下などにおいて、流れてくる有機物や水生昆虫などを食べます。



アブラハヤ（全長 13 cm）体がぬるぬるしている。体の中央に黒いすじがある。葛葉川では最も多い。



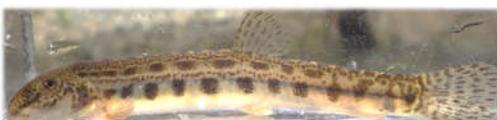
ウグイ（全長 30 cm）普段は銀色一色だが、繁殖期にはオスもメスも鮮やかな橙色のすじが現れる。



シマヨシノボリ（全長 7 cm）ほほにミミスズ状の模様がついている。腹びれが吸盤状で石にはりつく。



オオヨシノボリ（全長 10 cm）ほほに模様がない。繁殖期のオスは黒くなり、ひれの縁が白く目立つ。



ヒガシマドジョウ（全長 14 cm）口ひげは6本。体の中央に黒く四角い点が並ぶ。砂底にもぐるのが好き。



ドジョウ（全長 20 cm）口ひげは10本。背中はや粒模様。泥底が好きなので、葛葉峡谷では少ない。

エビやカニのなかま



サワガニ（甲幅 2.5 cm）



モクズガニ（甲幅 10 cm）



テナガエビのなかま（全長 6 cm）



フロリダミズヨコエビ（全長 5 mm）

カエルのなかま



カジカガエル（全長 4 cm、♀ 8 cm）吸盤状の口を持つおたまじゃくし



参考文献：「新訂 水生生物ハンドブック」文一総合出版、「原色 川虫図鑑」全国農村教育協会「ヤゴハンドブック」文一総合出版、「日本の淡水魚」山と溪谷社

編集・発行：秦野市くずはの家 〒257-0031 秦野市首屋 1137 TEL:0463-84-7874

発行日：2021年7月10日 写真協力：くずはの家えきの会 水辺分科会

*このリーフレットは公益財団法人 かながわトラストみどり財団の助成金を活用して作成されました。

くずはの広場・かんさつガイド③



葛葉川の生き物

川の生き物を採集してみよう！

川の生き物というと、魚やカニを思い浮かべる人が多いでしょう。葛葉川をのぞいただけでは、他の生き物がいるようには見えません。でも、網を入れて石をひっくり返してみてください。すると、いろいろな形の小さな生き物たちがびっくりするほどたくさんすんでいることに気がきます。

必要な道具



川での注意

- ❖深い場所や滑りやすい所などは危険ですので絶対近づかないでください
- ❖雨天の時や川が増水している時は、川に近づかないでください
- ❖子どもだけで川に行っただけではいけません。必ず大人と一緒にいきましょう

こんな場所を探そう！



採集のしかた

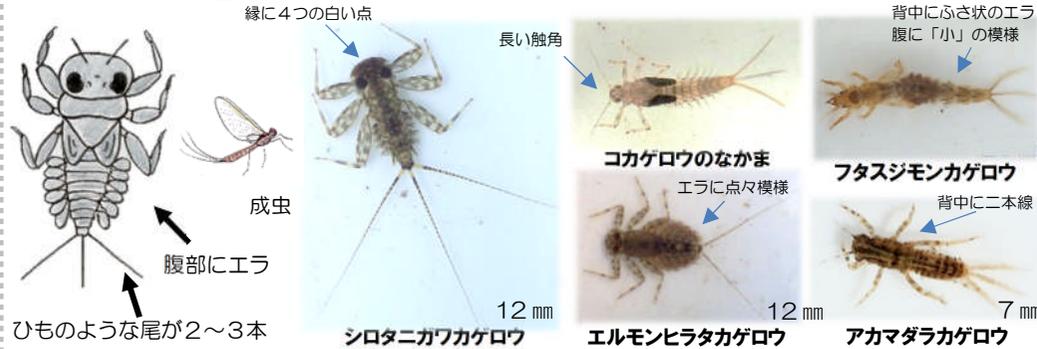


川下に網を置き、石をひっくり返したり、足で川底をひっかいたりして採集します。

観察が終わったら生き物達は元の場所に戻してあげてね！

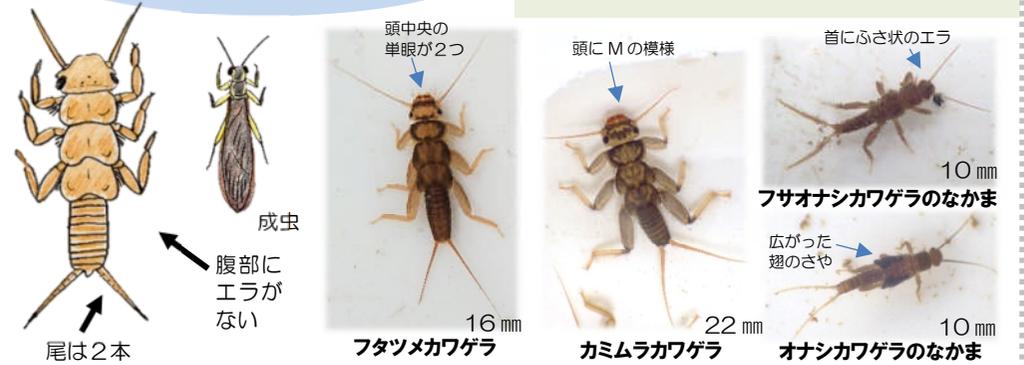
カゲロウのなかま

水中の石の表面や川底の砂の中にすんでいて藻類などを食べます。



カワゲラのなかま

水中の石の表面を動き回って他の水生昆虫を食べます。



トビケラのなかま

石と石の間に糸で巣をかけるものや石粒や砂粒で作った移動式の巣を持つものがいて、藻類や流れてきた有機物を食べます。



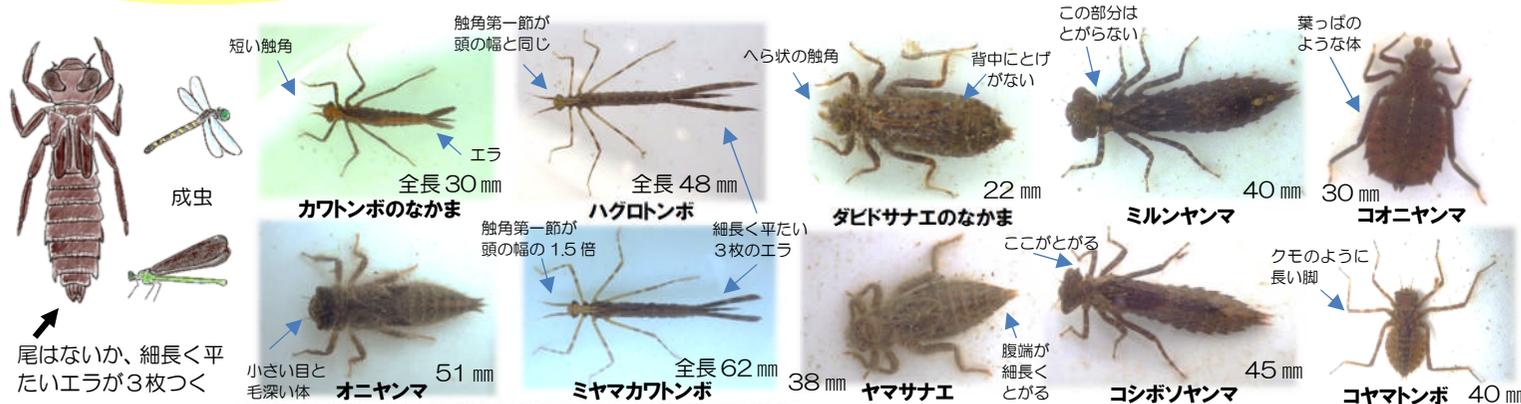
その他のなかま

その他の昆虫類やダニ、貝、ヒルなど、様々な仲間の生物がいます。



トンボのなかま

川岸の植物につかまったり砂の中や落ち葉の下に隠れたりして他の水生生物を食べます。



ヘビトンボ

川底や水中の石の上を歩き回って、大きなあごで水生生物を食べます。



葛葉川で見られる生き物のおおまかな最大サイズを〇mm、〇cmと表示しています。